

**かぜ（感冒）・インフルエンザ等  
季節性疾患（入院外）の動向に関するレポート  
【平成 24 年度版】**

**平成 25 年 12 月**

**健康保険組合連合会**

**IT 推進部 データ分析推進グループ**

本レポートは、かぜ(感冒)、インフルエンザ等の季節性疾患における入院外の動向について、加入者皆様への注意喚起の観点から、平成 24 年度の受診動向と対前年同期比の推移を調査したものです。予防対策や注意喚起など広報誌やホームページ等でご活用頂ければ幸いです。

なお、対象疾患は、①急性鼻咽頭炎[かぜ]〈感冒〉、②インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ、インフルエンザ:インフルエンザウイルスが分離されないもの、③血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎〈鼻アレルギー〉、④ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸炎(ノロウイルス)の 4 疾患とし、対象組合数 536 組合のレセプト・データを使用しています。

#### ●調査対象疾患(ICD-10)

ICD-10 コード名称
J00:急性鼻咽頭炎[かぜ]〈感冒〉
J10:インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ J11:インフルエンザ:インフルエンザウイルスが分離されないもの
J30:血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎〈鼻アレルギー〉
A081:ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸炎(ノロウイルス)

#### ●536 組合:レセプト・データ

ICD-10	加入者数 (名)	受診者数 (名)	加入者数に 占める割合(%)	レセプト件数 (件)	医療費 (円)
J00	12,431,660	451,989	3.64	685,856	4,569,484,370
J10,J11		754,701	6.07	824,334	7,049,523,150
J30		1,735,811	13.96	3,419,702	20,455,740,060
A081		5,505	0.04	5,791	47,985,320

#### ●加入者数の増減

組合数	H24 年度	H23 年度	増減率
536 組合	12,431,660	12,491,975	▲0.48

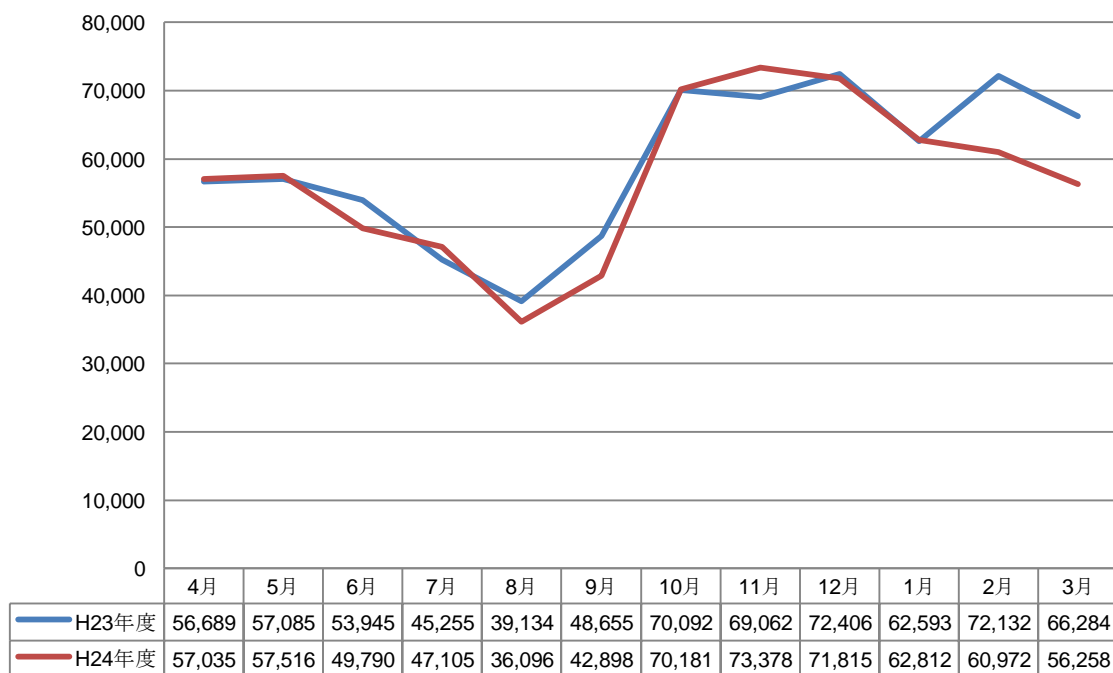
## 1. 急性鼻咽頭炎[かぜ]〈感冒〉の動向

### (1) 受診者数の動向

- 平成 24 年度の 536 組合(約 1,243 万人)の「急性鼻咽頭炎[かぜ]〈感冒〉」による外来受診者数は年間約 45.2 万人(対前年比▲4.06%)で、加入者全体の 3.64%を占めている。
- 受診者数の月次推移をみると、10 月に受診者数が急増し、23 年度とはやや異なり 11 月をピークに緩やかに減少していく傾向にある。
- なお、急性鼻咽頭炎:J00 には下記の傷病名(ICD-10)が含まれている。

	平成 23 年度	平成 24 年度	対前年比伸び率
年間受診者数	47 万 1,121 名	45 万 1,989 名	▲4.06%
医療費	48 億 7,810 万 7,880 円	45 億 6,948 万 4,370 円	▲6.33%

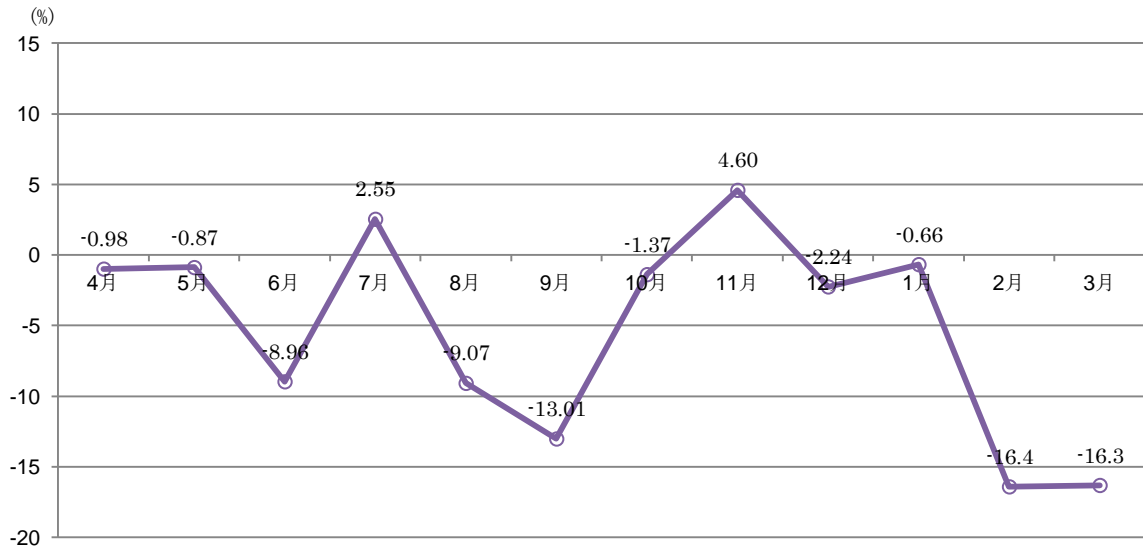
月別受診者数(人)



ICD-10	傷病名
J00	かぜ
J00	感染性鼻炎
J00	感冒
J00	急性鼻咽頭炎
J00	急性鼻炎

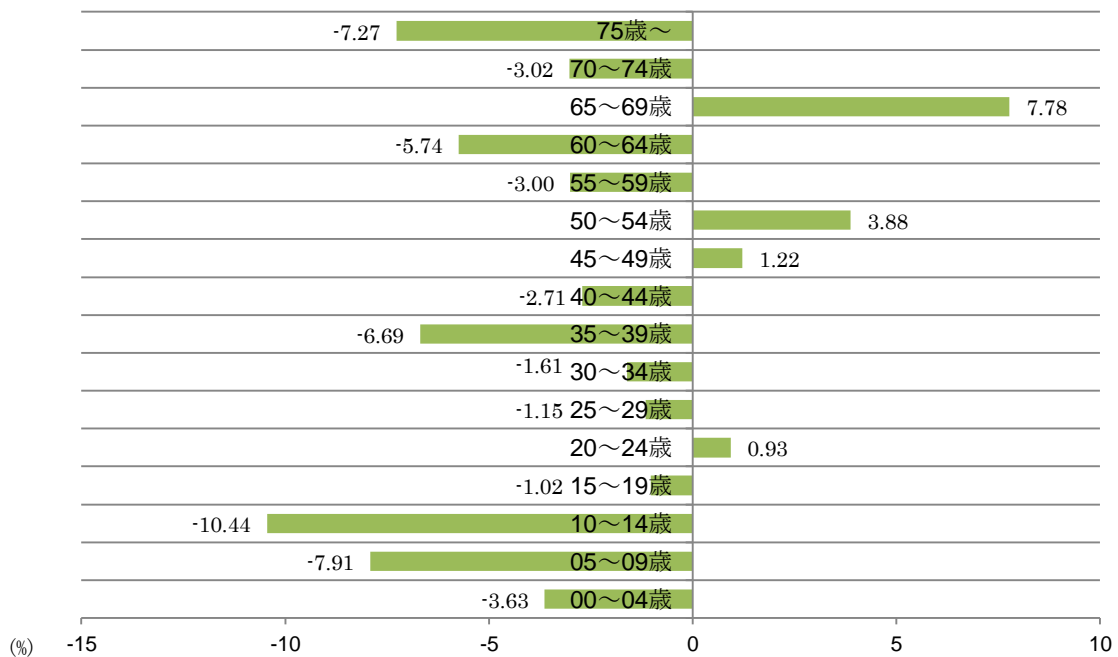
## (2) 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移

- 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移をみると、7月:2.55%、11月:4.60%と増加した以外は、どの月でもマイナスを示していることがわかる。



## (3) 年齢階層別にみた伸び率(対前年度比)

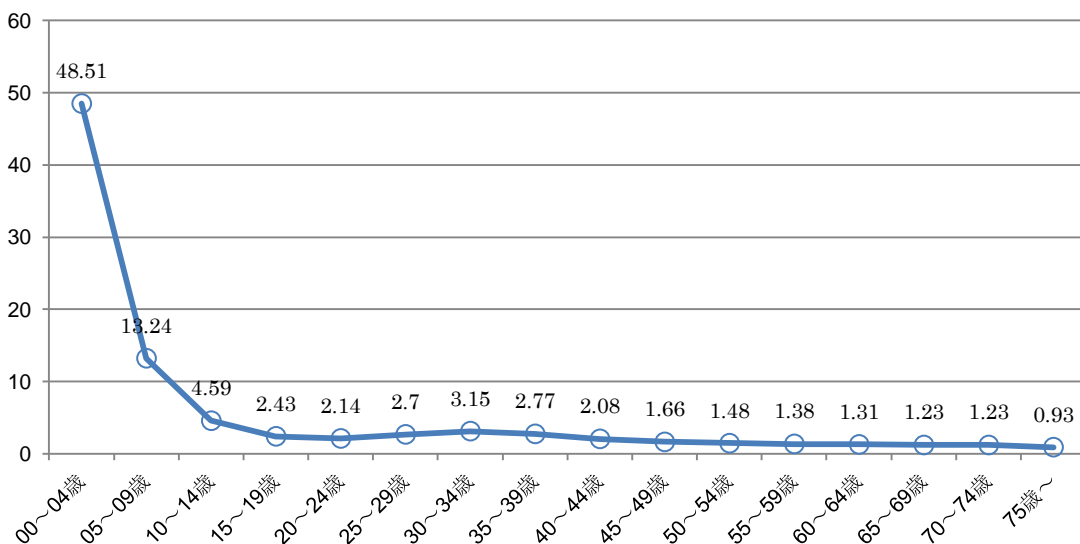
- 年齢階層別に伸び率をみると、①65-69歳で7.78%と高い伸び率を示しており、次いで、②50-54歳:3.88%、③45-49歳:1.22%となっている。



#### (4) 年齢階層別にみた受診率(100人当たり)

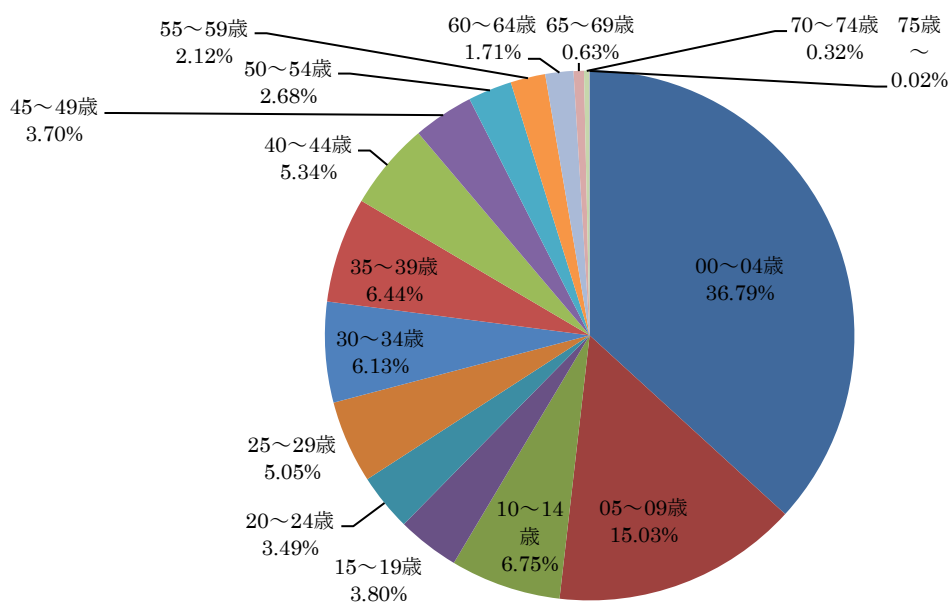
- 年齢階層別に受診率をみると、①00-04歳が48.51と最も高く、次いで、05-09歳：13.24、②10-14歳：4.59と、乳幼児、就学者層で高い数字となっている。

(受診率/100人当たり)



#### (5) 年齢階層別にみた受診者の割合

- 年齢階層別に受診者の割合をみると、①00-04歳：36.79%、②05-09歳：15.03%、③10-14歳：6.75%となっており、乳幼児、就学者層で高い割合となっている。



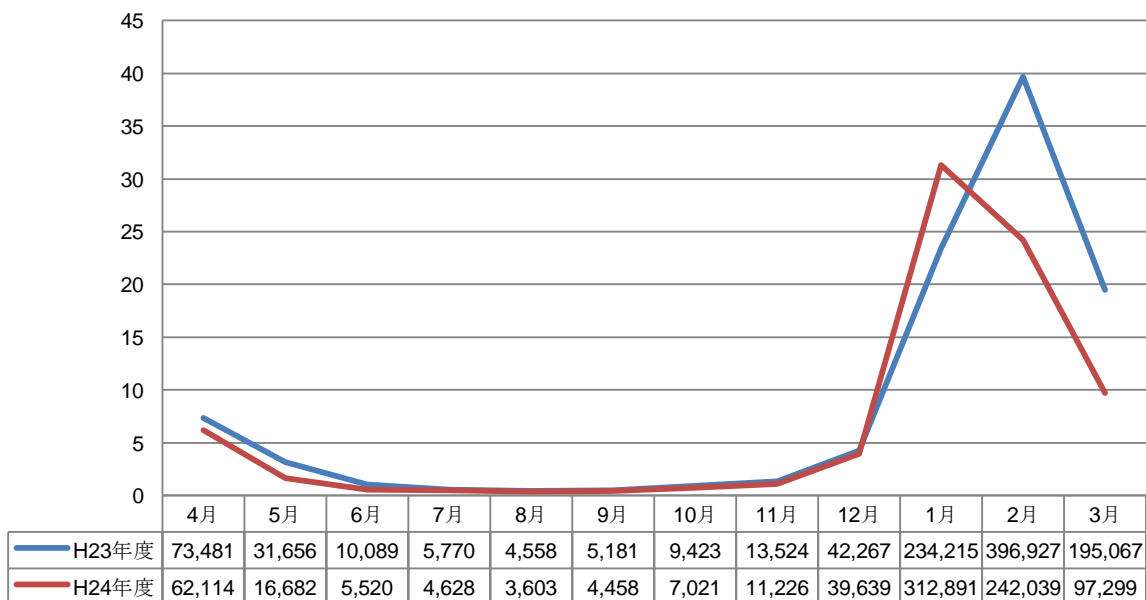
## 2. インフルエンザ(J10、J11)の動向

### (1) 受診者数の動向

- 平成 24 年度の 536 組合(約 1,243 万人)の「インフルエンザ(J10、J11)」による外来受診者数は年間約 75.5 万人(対前年比▲18.19%)で、加入者全体の 6.07%を占めている。
- 受診者数の月次推移をみると、24 年度は 23 年度とは異なり、1 月に突出してピークを迎え、以降、減少傾向にあることがわかる。
- なお、インフルエンザ:J10、J11 には次頁の傷病名(ICD-10)が含まれている。

	平成 23 年度	平成 24 年度	対前年比伸び率
年間受診者数	92 万 6,647 名	75 万 4,701 名	▲18.19%
医療費	89 億 7,002 万 8,030 円	70 億 4,952 万 3,150 円	▲21.41%

月別受診者数(万人)

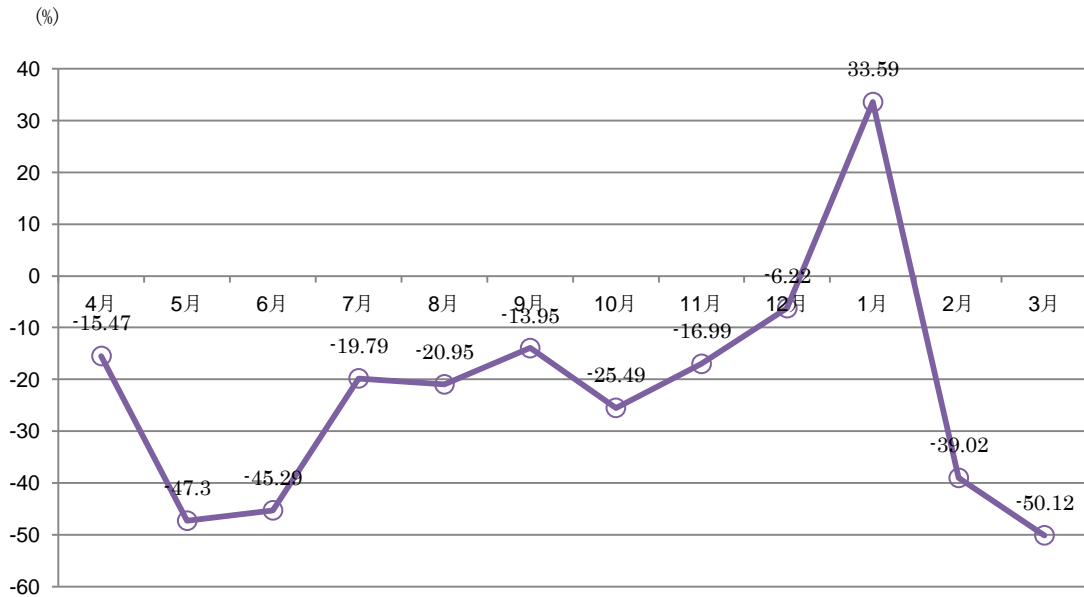


ICD-10	傷病名
J101	インフルエンザ(H1N1)2009
J101	インフルエンザAソ連型
J101	インフルエンザA型
J101	インフルエンザA香港型
J101	インフルエンザB型
J101	新型インフルエンザ(H1N1)
J101	鳥インフルエンザ

ICD-10	傷病名
J110	インフルエンザ肺炎
J111	インフルエンザ
J111	インフルエンザ気管支炎
J111	インフルエンザ性咽頭炎
J111	インフルエンザ性急性上気道感染
J111	インフルエンザ性胸水
J111	インフルエンザ性喉頭炎
J111	インフルエンザ性喉頭気管炎
J111	インフルエンザ性副鼻腔炎
J118	インフルエンザ心筋炎
J118	インフルエンザ性胃腸炎
J118	インフルエンザ脊髄炎
J118	インフルエンザ中耳炎
J118	インフルエンザ脳症
J118	インフルエンザ脳脊髄炎
J118	感冒性腹症
J118	急性インフルエンザ心筋炎

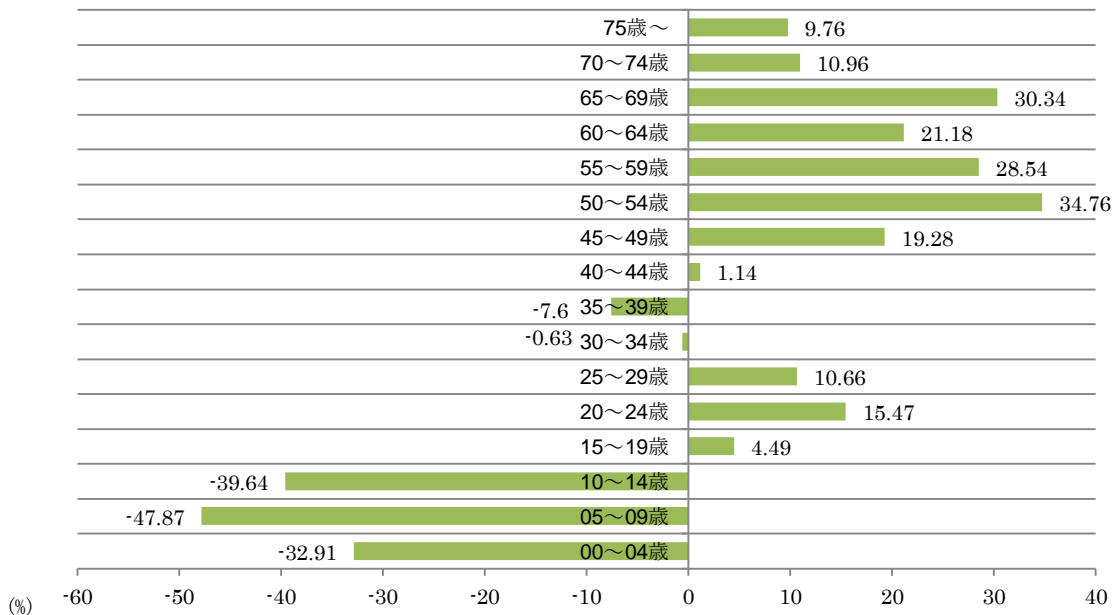
## (2) 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移

- 1月を除いて全体的にはマイナスの伸び率となっている。1月是对前年同期比33.59%の伸びとなっている。



## (3) 年齢階層別にみた伸び率(対前年度比)

- 年齢階層別の伸び率をみると、乳幼児・就学者層で伸びがマイナスになっており、逆に45歳以上で高い伸び率を示している。

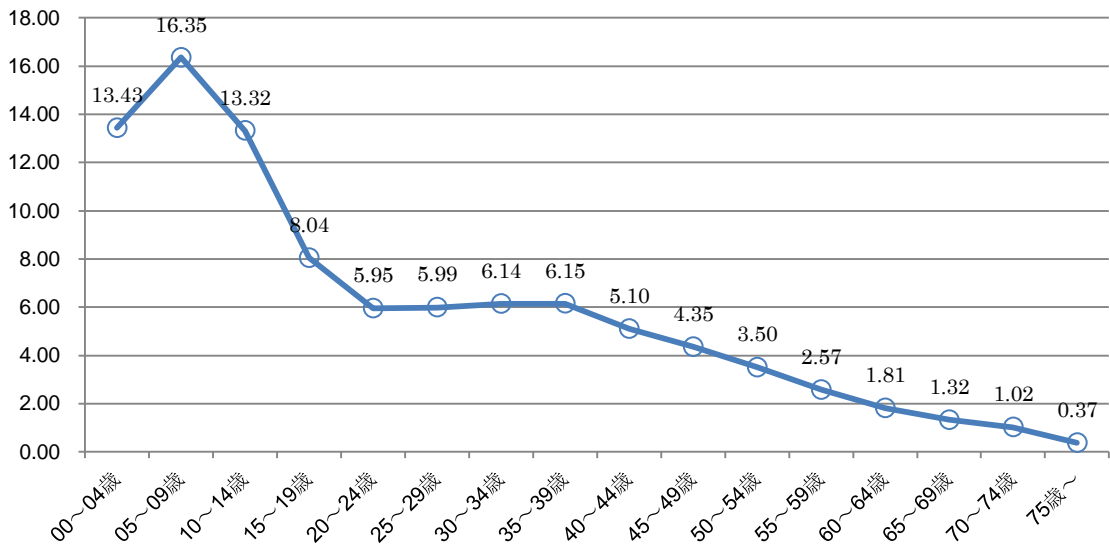




#### (4) 年齢階層別にみた受診率(100人当たり)

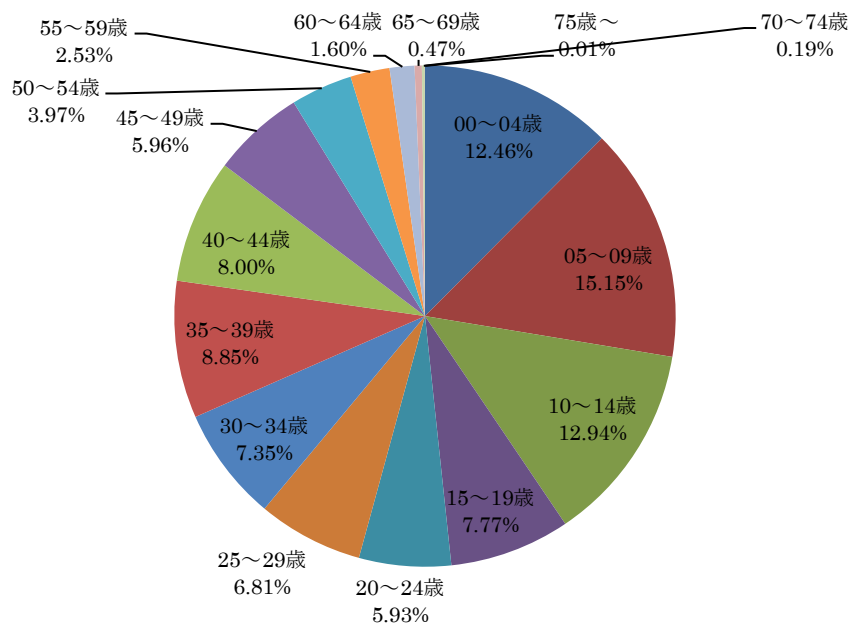
- 年齢階層別に受診率をみると、最も高いのは 05-09 歳:16.35 で、次いで、② 00-04 歳:13.43、③10-14 歳:13.32 となっており、乳幼児・就学者層で極めて高くなっている。

(受診率/100人当たり)



#### (5) 年齢階層別にみた受診者の割合

- 年齢階層別に受診者の割合をみると、00-14 歳の乳幼児・就学者層で高い割合のほか、35-44 歳でも比較的高い割合を示している。



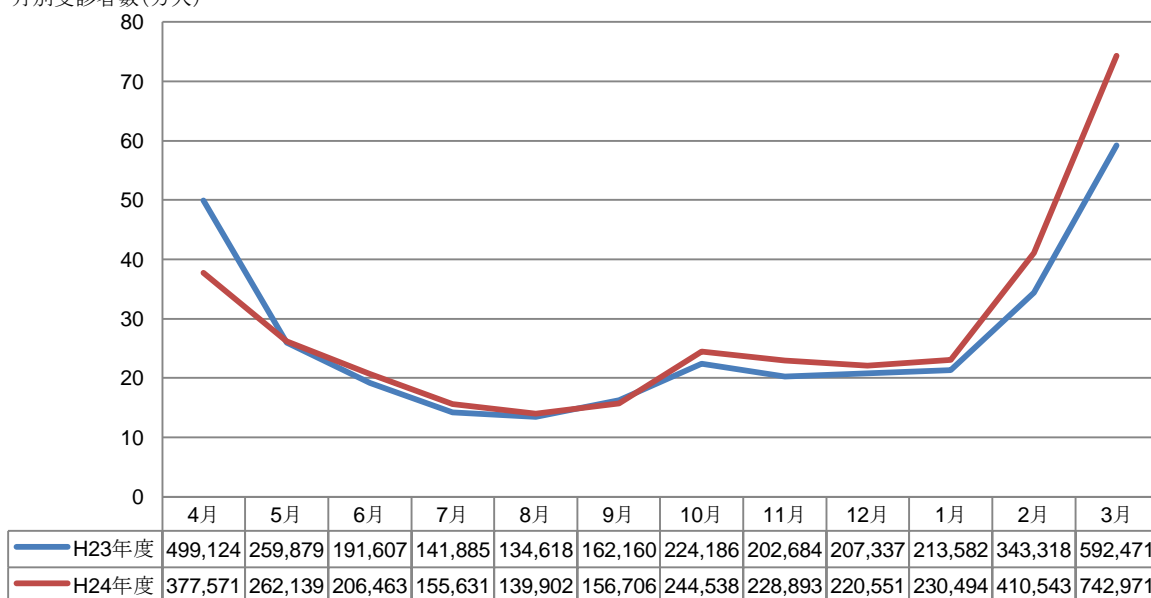
### 3. 血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>の動向

#### (1) 受診者数の動向

- 平成 24 年度の 536 組合(約 1,243 万人)の「血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>」による外来受診者数は年間約 173.6 万人(対前年比 7.08%)で、加入者全体の 13.96%を占めている。
- 受診者数の月次推移をみると、花粉が飛散する 2 月～4 月にかけて受診者が急増しており、ピーク時の 3 月の受診者は約 74 万人(全体の 5.99%)となっている。
- 上記以外では、9 月～10 月にかけてやや高い数値が示されている。
- なお、血管運動性鼻炎及びアレルギー性鼻炎<鼻アレルギー>の動向:J30 には下記の傷病名(ICD-10)が含まれる。

	平成 23 年度	平成 24 年度	対前年比伸び率
年間受診者数	162 万 1,105 名	173 万 5,811 名	7.08%
医療費	192 億 6,605 万 2,670 円	204 億 5,574 万 60 円	6.18%

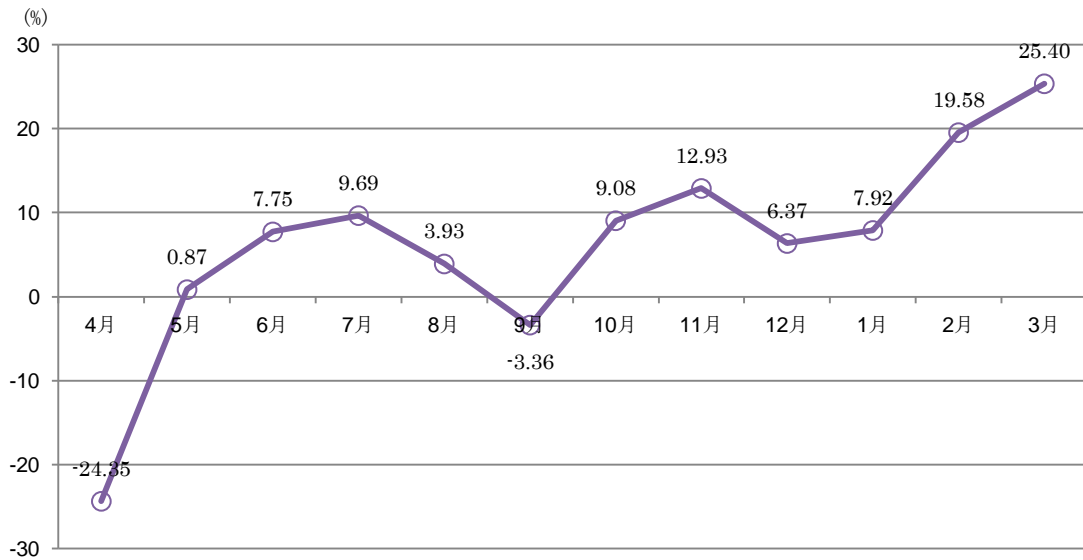
月別受診者数(万人)



ICD-10	傷病名	ICD-10	傷病名
J300	血管運動性鼻炎	J303	アレルギー性副鼻腔炎
J301	アレルギー性鼻結膜炎	J303	通年性アレルギー性鼻炎
J301	花粉症	J304	アレルギー性鼻咽頭炎
J302	季節性アレルギー性鼻炎	J304	アレルギー性鼻炎

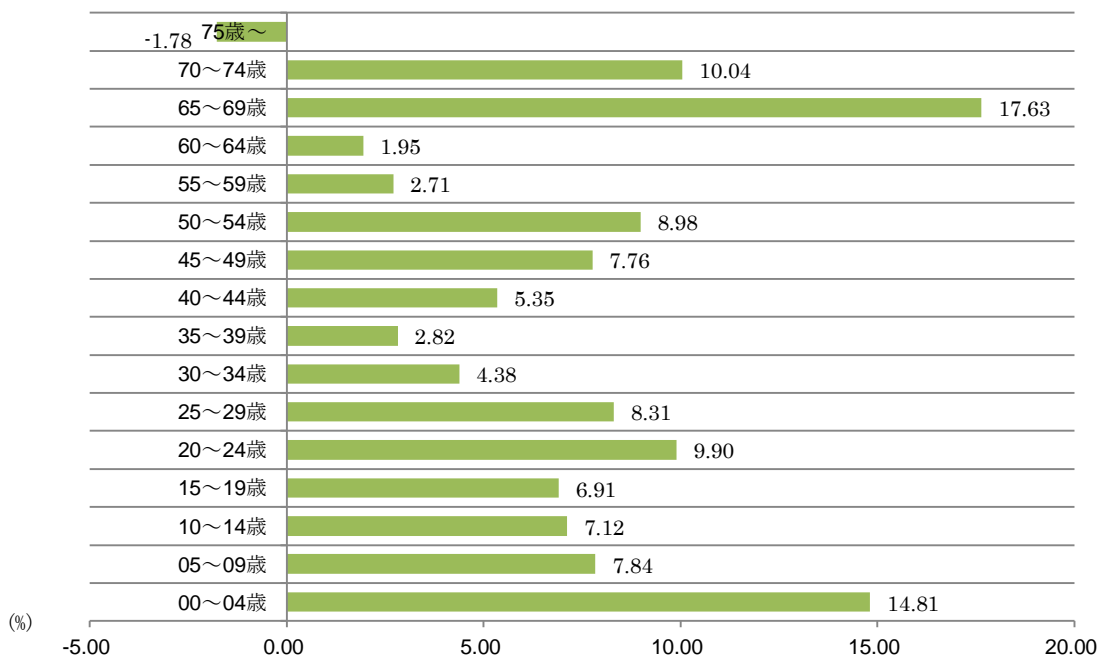
## (2) 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移

- 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移をみると、4月：▲24.35%、9月：▲3.36%と減少している以外は、どの月でも増加しており、とくにピーク時の3月では25.40%の伸びとなっている。



## (3) 年齢階層別にみた伸び率(対前年度比)

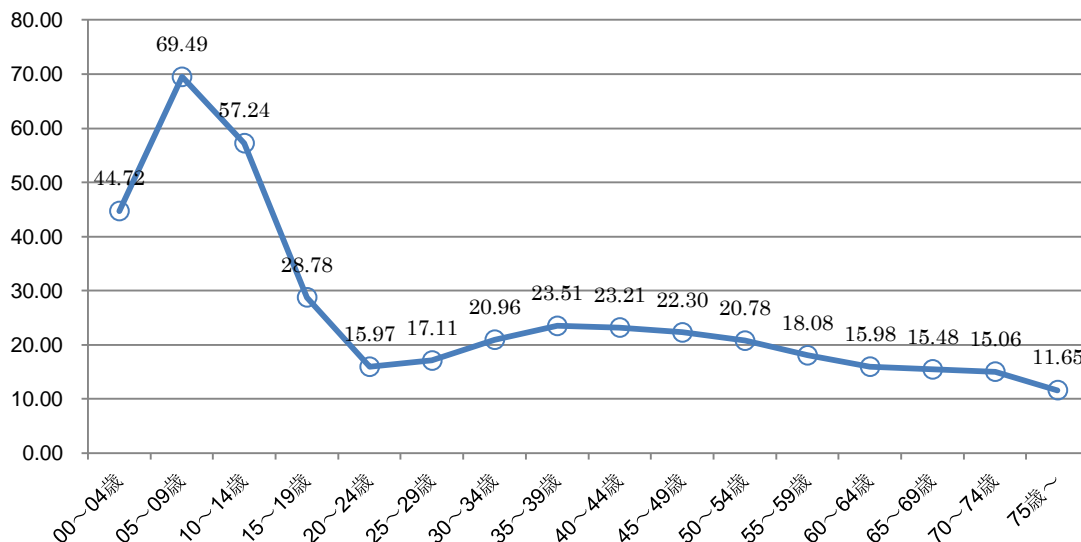
- 年齢階層別の伸び率をみると、伸びが顕著なのは、①65-69歳:17.63%で、次いで、②00-04歳:14.81%、③70-74歳:10.04%となっている。



#### (4) 年齢階層別にみた受診率(100人当たり)

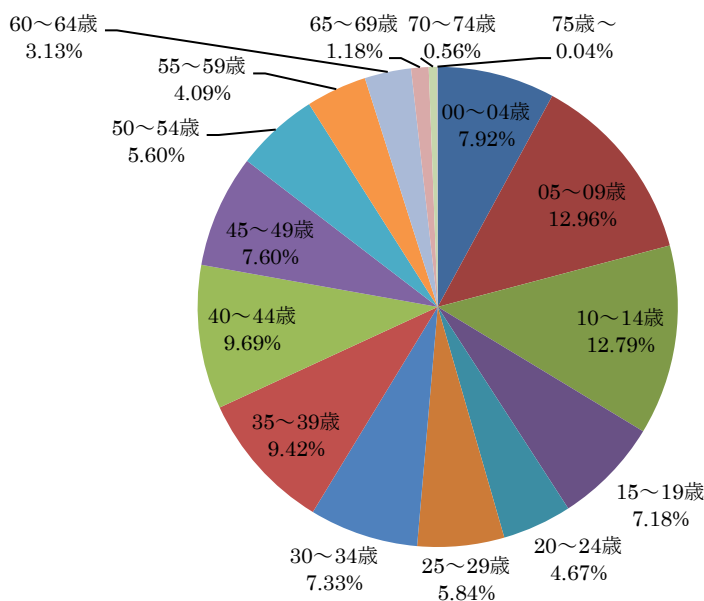
- 年齢階層別に受診率をみると、①05-09歳:69.49、②10歳-14歳:57.27、③00-04歳:44.72と、乳幼児・就学者層で非常に高い傾向が示されている。

(受診率/100人当たり)



#### (5) 年齢階層別にみた受診者の割合

- 年齢階層別に受診者の割合をみると、05-09歳:12.96%、10-14歳:12.79%の就学者層で高い割合を示しているほか、40-44歳:9.69%、35-39歳:9.42%と、30歳代後半から40歳代前半で高い傾向にある。



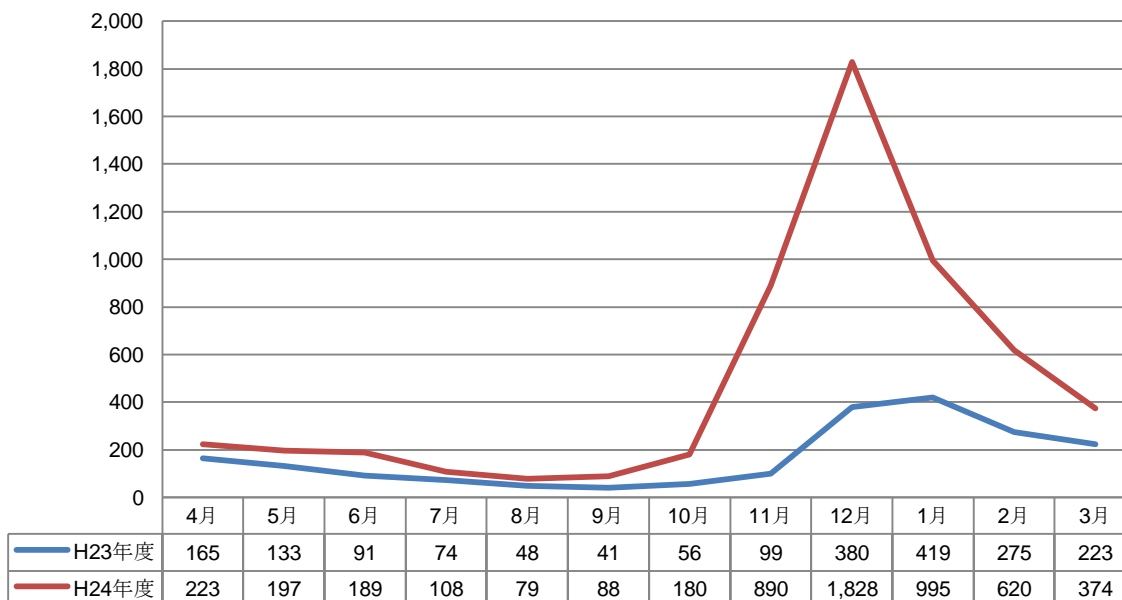
#### 4. ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸炎(ノロウイルス)

##### (1) 受診者数の動向

- 平成 24 年度の 536 組合(約 1,243 万人)の「ノーウォーク様ウイルスによる急性胃腸炎(ノロウイルス)」による外来受診者数は、対前年比 188.37%増加の 5,505 人で、23 年度に比べ顕著に増加していることがわかる。
- 受診者数の月次推移をみると、11 月から急増し、12 月をピークとして減少していく傾向にある。

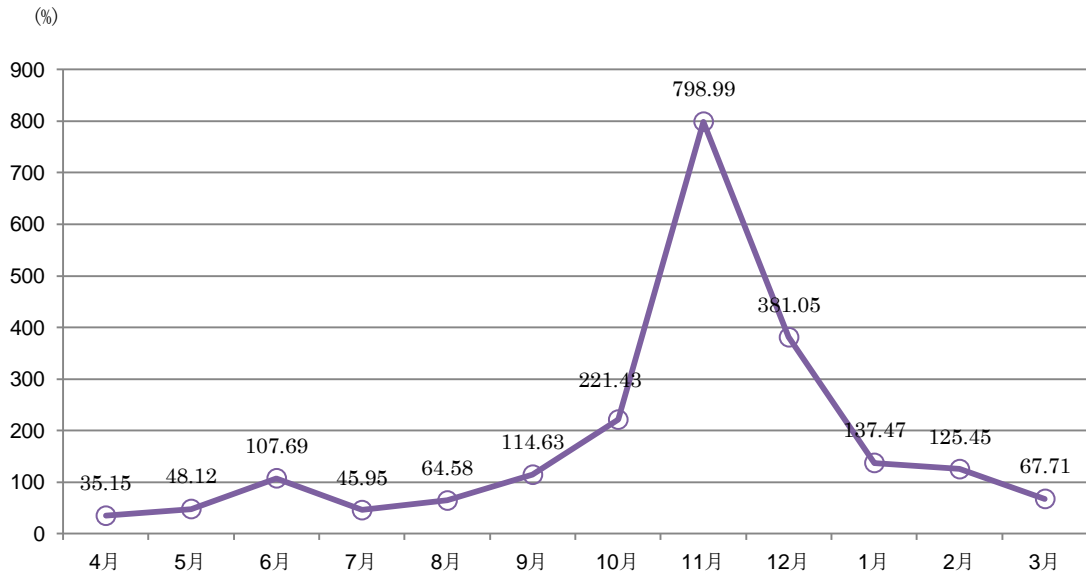
	平成 23 年度	平成 24 年度	対前年比伸び率
年間受診者数	1,909 名	5,505 名	188.37 %
医療費	1,497 万 2,650 円	4,798 万 5,320 円	220.49%

月別受診者数(人)



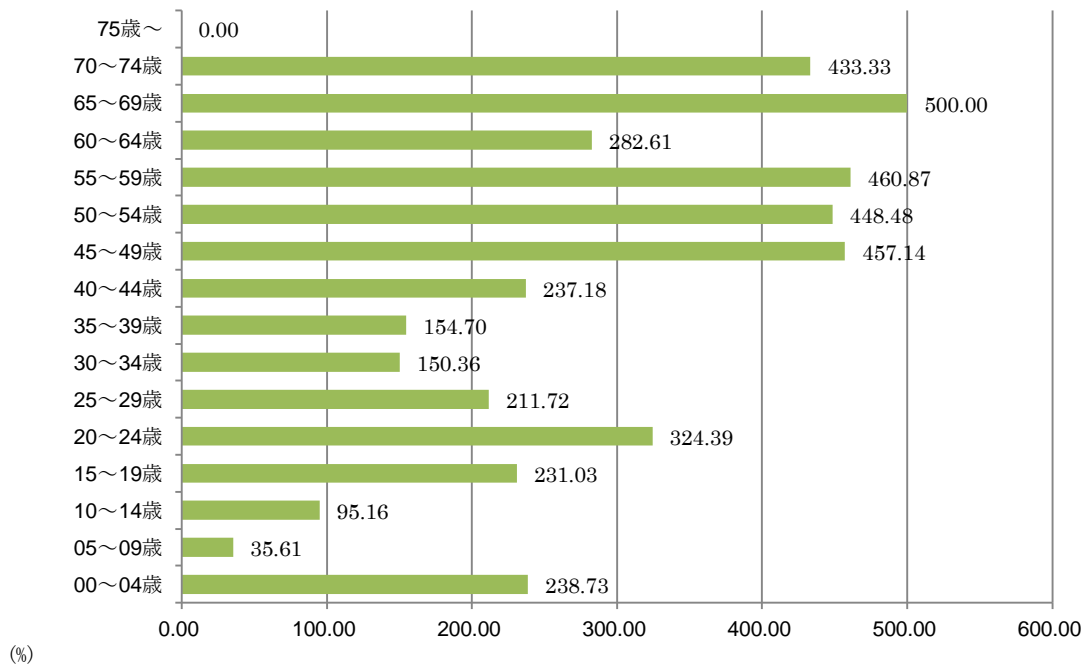
## (2) 受診者数の伸び率(対前年同期比)の推移

- 受診者数の伸び率の推移をみると、どの月でも増加しているが、とくにピーク時の11月では、798.99の増加率と非常に高い数値を示している。



## (3) 年齢階層別にみた伸び率(対前年度比)

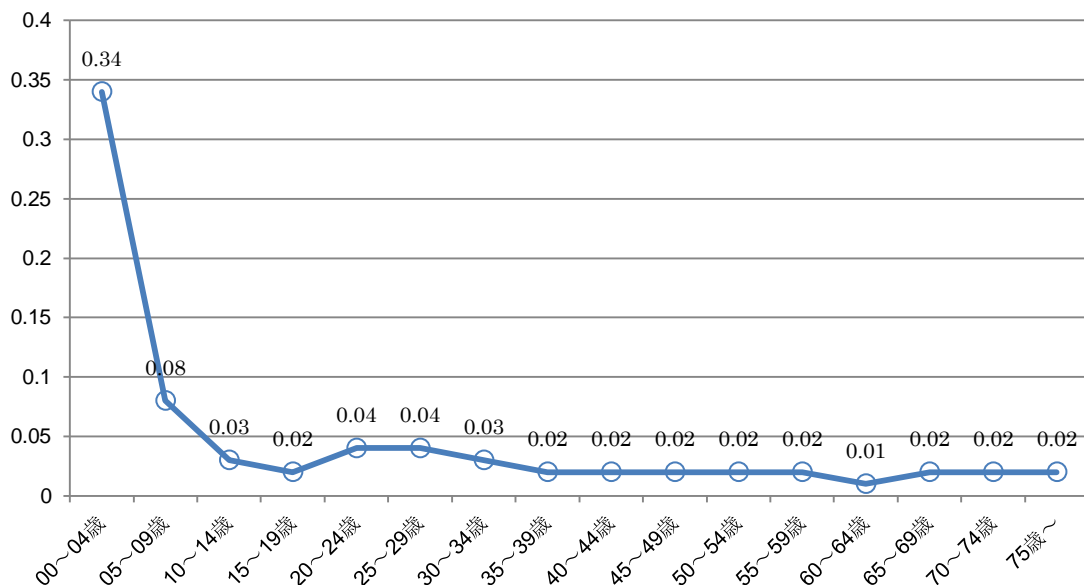
- 年齢階層別に伸び率をみると、どの年齢階層でも高い伸び率を示しており、とくに45歳以降の中・高年齢層で高い伸び率を示している。



#### (4) 年齢階層別にみた受診率(100人当たり)

- 年齢階層別に受診率をみると、全年齢階層のなかでは 00-04 歳の乳幼児が最も高く、0.34 となっている。

(受診率/100人当たり)



#### (5) 年齢階層別にみた受診者数の割合

- 年齢階層別に受診者数の割合をみると、最も高い割合を示しているのは、00-04 歳:39.87%で、次いで、②05-09 歳:10.10%、③25-29 歳:7.25%となっている。

